



Title	分かりやすい授業
Author(s)	千藤, 洋三
Citation	葦, 119: 39-39
Issue Date	2001-08
URL	http://hdl.handle.net/10112/2084
Rights	
Type	Others
Textversion	

本年五月に行われた教育懇談会で、三年生のある父親から、授業が分かりにくいと息子さんが通学の意欲を失っているとの相談をお受けした。勉強そのものが嫌になったわけではなく、とにかく先生方の授業の多くが分からないとのことであった。

では、一体、どうすればよいのだろうか。関西大学では、学生による授業評価をとりいれたり、昨年から全学共通教育推進機構をもうけ授業方法の改善などに乗り出している。また、最近では私の専攻分野である法律学でも、米倉明・早大教授が、『法学・法学教育』（新青出版・平成12年12月）と『民法の教え方』（弘文堂・平成13年3月）の二冊をあいついで上梓し、講義の仕方等について、実践的な教授法を展開されている。このように、大学の授業も次第に工夫が加えられ、聞き手の側に立った分かりやすい講義が行われるよ

分かりやすい授業

法学部教授

せん
千

とう
藤

よう
洋

ぞう
三

うになつてきている。

私もまた、千葉県幕張のメディア教育開発センターや八王子市で開かれた大学教育研修プログラムに参加しノウハウを吸収しながら、近年は特に、授業時に、もしも分からない者がいれば、黒板の前に来てもらい、どこで分からなくなつたかを聞き出し、納得するまで説明を繰り返すことを試みている。根気と時間が必要であるが…。

もつとも、経済財政担当相に就任された竹中平蔵・慶大教授のように、難しいことも極めて分かりやすく話せる能力があれば、問題は随分と解決されようが、私のような凡人には叶わない望みである。そこで、私としては、難しいことではあるが、「どのような学生に対してでも尊敬の気持ちを持つこと」と（19世紀のアメリカの哲学者・エマーソンの言葉）と教えることへの情熱を持ちつづけたいと思う。

